

## 展望台で雄大な浅間山を眺める 黒斑山・蛇骨岳

実施日 2013年8月25日(日)  
 天候 曇り後時々晴れ  
 リーダー 石原 勝正 SL 伊藤 久雄  
 参加者 斎恵美子、若村勝昭、佐藤金  
 治、涌井良明、石附智江、渋  
 谷賢寿、渋谷京子、中村友子、  
 伊藤久雄、石原勝正 計10名  
 費用 車3台(13,000~15,000円/台)  
 同乗者で分担  
 タイム 車坂峠駐車場(10:05~11:30)ト  
 ミの頭(11:45~12:00)黒斑山(12:  
 30~12:55)蛇骨岳(13:20~13:50)  
 黒斑山(14:00~14:20)ト  
 ミの頭(14:35~15:45)車坂峠駐車場

山行は前日24日(土)の予定であつたが天気予報で降雨が予想されていたため翌日に順延したものの、当日は不運にも東京は朝から雨。関越高速道の高坂SAでマイカー三台が合流し、午後から天候回復という予報を頼りに雨の高速道路を小諸IC向け出発した。小諸インターから国道18号線に降り、坂の上南を左折しリンゴ農園の中を走り車坂峠に向かうときは本降りの雨も止み、10時前に車坂峠に着く。登山口にはすでに20名以上の登山客が詰めかけていた。こぶし会のメンバーも準備を整えた後、曇天と濃霧のなかを表コースの登山口から黒斑山へ向かう。



マツムシソウや山アザミが咲く濡れた下草と樹林帯の登山道を40分ほど登り急坂のガレ場に着くと、一時的に日が差すとともに霧が晴れ、登山口の高峰高原ホテルや北西に広がる高峰山、籠の登山や水ノ塔山の展望を楽しみ、最初の小休止をとる。その後、樹林帯に入り開花期を過ぎたアズマシクナゲやカマボコ型の鉄製避難小屋のある槍ヶ鞘や中コースの分岐点を通り過し、東側が鋭く切れ込んだガレ場の尾根を登りトミの頭に着き再び小休止をとる。トミの頭は溶岩や露岩の重なったピークで東側の浅間山を望む絶景ポイントの位置にあるが、再び濃い霧に囲ま

更に冷たい風で寒さも加わってきたため、復路での天候の回復を期待し早々と出発する。トミの頭から草すべりの分岐を通過し正午に黒斑山の頂上に到着する。黒斑山の頂上は狭いピークで他の登山客も昼食をとっていた。我がパーティも展望がまったくきかない中であつたが、会報用の集後30分の昼食タイムをとった。ここから、東側が急峻な火口壁に沿って、樹林帯、笹原とガレ場を通過する登山道をアップダウンし、30分ほどで溶岩の露出した往路の最後のピークである蛇骨岳に到着する。蛇骨岳で休憩中に、突然、火口壁東側の濃い霧が西から東に流れ始め、目の前に雄大な浅間山がうっすらと姿を現し天候の回復の兆しを見せ始めた。帰路は黒斑山から草すべりの分岐と進むうちに徐々に霧が晴れトミの頭まで到達する。トミの頭は、雄大な裾野の広がった浅間山本山と前掛山を展望すると絶景ポイントとなつて



なっていた。また、黒斑山から蛇骨岳、仙人岳、鋸岳をへてJバンドまで続く浅間外輪山、眼下の美しい緑の広がる湯の高原も眺望することができた。往路の登りは曇天と濃霧で展望が皆無であつたが、復路は浅間山の雄大な展望を満喫する素晴らしい山行となつた。最後は車坂峠のホテル自慢の温泉「こまくさの湯」で山行の汗を流し、東京に向けて帰路に着いた。



最後は車坂峠の温泉「こまくさの湯」で山行の汗を流し、東京に向けて帰路に着いた。



(記・石原 勝正)

(写真提供・涌井 良明/伊藤 久雄)